

ニュースレター

No.52

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
 事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
 稲城市地域振興プラザ 1F
 TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
 E-mail : info@i-inagi-support.org
 http : //www.i-inagi-support.org/

●市民活動サポートセンターいなぎ

2016 年度の年間事業計画

市民活動サポートセンターいなぎでは、今年度も下記のように様々な事業を予定しています。
 詳しい内容については、その都度広報いなぎやチラシなどでお知らせしますが、これから実施する事業が沢山あります。ぜひ皆さんの活動にお役立てください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
I. 市民活動相互交流事業												
市民活動フォーラム 2016									○			
市民活動団体との協働事業		●							〈随 時 実 施〉			
金曜サロンスペシャル	●		●	○		○	○	○	○	◎	○	○
II. 市民活動に関する情報収集及び提供事業												
ニュースレターの発行			●				○				○	
ホームページ・ブログ												
III. 市民活動支援及び相談事業												
NPO 講座												
市民活動支援講座												
市民活動支援基金			●	(決定済み)								
講師派遣・相談事業												
IV. 市民活動の調査研究とこれに基づく政策提言事業												
ちゃぶ台キャラバン事業					○							
V. 市民活動団体や行政及び企業との協働事業												
手づくり市民まつりへの参加		●										
Iのまちいなぎ市民祭への参加							○					
行政との協働企画講座											○	
VI. センターの設備及び機器の利用提供事業												
ミーティングコーナー												
印刷機等の利用												
図書の閲覧及び貸出し等												

●は、すでに終わっている事業です。

◎は「新年の夢を語り合う会」で、利用登録団体懇談会を兼ねて開催します。

サポートセンターを **おおいにご活用ください!**

森をあそびつくそう

里山の恵み豊かな稲城市。今回は、里山の森で楽しみながら環境保護、里山文化の保全などの活動をしている団体を紹介します。



森のたからばこ



小田良地区の里山を活かした青少年施設「稲城ふれあいの森」で、4～6月と9～11月の週末（月2回程度）に、クラフト工作や昔遊び、お話会など、子どもから大人まで家族で楽しめるイベントを行っています。

クラフト工作は、「ナイフを使えない子が増えているので、出来上がったものをお土産にもらうのではなく、自然にある素材で手作りしたものを持って帰ってほしい」との思いから、森で枝や木の実を拾ってきて、切ったり削ったりしながら、箸やバターナイフ、竹笛、竹とんぼ、オブジェ等を親子で一緒に作ります。

出来上がったオブジェを見せてもらうと、材料を拾ってきてから何を作るかを考えたとは思えない完成度。子どもの持っている創造力や工夫する力に驚かされます。普段とは違って工作に熱中するお父さんの姿に驚く子ども多いそうで、親も子どもも新鮮な体験ができる場となっています。（稲城市のwebサイトに活動予定が掲載されています）



稲城炭焼き倶楽部



「稲城の粘土で昔ながらの窯を造って、炭焼きをしよう」という呼びかけで集まった人たちが2007年に発足し、「里山の再生と保全」を旗印に12人のメンバーが月3～4回のペースで活動しています。

地権者の許可を得て、稲城の里山からクヌギ、コナラ、シラカシや竹を伐採して炭を焼き、木炭、竹炭をはじめ、マドラーや置物、消臭・防虫材など様々な炭製品を手作りし、市内のイベント等で販売しています。

炭焼きは、冬場に切って3か月以上乾燥させた木を3日3晩焼いた後、窯の煙突から立ち上る煙の色の変化で燃焼の完了を見極め、窯が冷めるのを待って取り出します。これまでに29回の炭焼きを行いました。木・竹や窯の土の含水状態などによって焼き時間や出来栄が毎回変わり、「そこが面白いところ」だそうです。

また、作業の後は、森の中で一杯やりながら色々な話をする「大人の付き合い」も楽しみの一つです。





いなぎ森フェス 2016 宵の音楽祭



今年も5月29日に、めぐみの里山（百村地区）をメイン会場として開催されました。

3回目の今回は、これまでとは趣向を変えて、舞台での催しは午後5時から8時まで。会場には2本のトータムポールと約200本の斜めに切った竹を配置し、日没と同時に中に入れたローソクに点火。森の暗がりやさしく照らす幻想的な雰囲気の中でライブは進められ、初出演のファイアーダンスが、それに一層彩りを添えていました。

また、様々な店が立ち並び「いなぎマルシェ」や「森カフェ & 森のガイドツアー」なども用意され、昼間から大勢の家族連れなどで賑わっていました。稲城駅から坂道を歩いて15分、しかも会場はコナラやクヌギの生い茂る雑木林の中とあって、日常的な空間とは別世界。ゆったりとした時間が流れていて心が洗われるような思いました。まさに稲城ならではの森のまつりでした。



稲城めかいの会



「めかい」という言葉をご存知ですか？

江戸時代後期以降に、南多摩地域の農家で作られた篠竹製のかごを「めかい」といいます。

一昔前は、稲城のどの家庭にも台所には「めかい」があり、野菜の水切りや蕎麦の器などに利用されてきました。「めかい作り」は農家の冬の収入源として盛んに行われてきましたが、プラスチック製品の普及とともに急速に廃れてしまいました。

一方、里山では篠竹の利用が無くなり、森を暗くしてしまう厄介者だと、嫌われてきました。

その篠竹の利用と籠作りの楽しさを復活させようと、2015年1月に「稲城めかいの会」が生まれました。まだ人に教えるほどの技術は身につけていませんが、11月から2月までの寒い時期が竹採りに適していますので、11月になったら講習会を開く予定です。

一緒に材料採りから楽しみませんか。



● 稲城市内で活動する関連団体

団体名	連絡先	団体名	連絡先
NPO 法人いなぎ里山グリーンワーク	web サイト http://inagi-greenwork.com/	大丸野草の会	芦川しげるさん TEL. 042 - 377 - 5633
NPO 法人南山の自然を守り育てる会	web サイト http://ina-mina.com	稲城野草散策の会	web サイト http://homepage3.nifty.com/inagiyasou/
NPO 法人里山プロジェクトみなみ	facebook ページ「稲城里山南ちゃんのみ」	稲城めかいの会	和田さつきさん TEL. 042 - 379 - 4192
城山トコロジストの会	web サイト http://shiroyama-park.jimdo.com/	稲城炭焼き倶楽部	金子純郎さん E-mail sk41816@s5.dion.ne.jp
いなぎ森フェス実行委員会	グリーン ワールド カフェ TEL. 042 - 379 - 8042	森のたからばこ	稲城市児童青少年課へお問い合わせください



自然体験コーディネーター・服部道夫さんの話から

6月3日に行われた金曜サロンスペシャルは、今回の特集「森を遊びつくそう」にピッタリの内容でした。というわけで、話し手・服部道夫さんの話の一部を紹介します。



稲城はなぜ自然の宝庫なのか、服部さんは次のように述べています。「普通の公園にキンラン、ギンラン、シュンラン、エビネ、タマノカンアオイなどが普通に咲いています。野草だけでなく、貴重な昆虫や野鳥も見られます。生物多様性の街が稲城であり、それは私たちの誇りです」

服部さんは、稲城中央公園でキンランを増やす活動を、仲間と一緒に10年以上続け成功させていますが、とても興味ある活動です。そうした自らの体験を踏まえ、①自然・環境講座や観察会に参加すること、②公園などを散歩し自然に親しむこと、③その上で、貴重な自然を次世代に引き継いでいくこと、の大切さを説いています。

「森を遊びつくす」とは、「森を守り育てる」にも繋がることなのだと感じました。

市民活動支援基金による今年度の助成団体は

応募があったのは次の1団体で、審査会で助成することが決まりました。

団体名：さんぼみち しょうぶの杜 (代表 福島 實千代さん)

助成の種類：ステップアップ助成

助成額：50,000円

基金の資金提供元：サポートセンター市民活動支援基金

活動内容：高齢者の居場所づくりの一環として、菖蒲田に花を咲かせる広場を整備する。(昨年度も助成を受けており、その2年目)



おじゃまします

登録団体

いなぎ FF ネットワーク



2001年9月から城山文化センターを拠点として、中高生の子どもたちが「ホッとくつろげる居場所づくり」を目的に活動している「いなぎFFネットワーク」におじゃましました。

この日は、食を通した「多世代交流」をテーマに、新会員の指導で飾り巻き寿司、名付けて「ニューファミリーの花」と、茶碗蒸しに挑戦しました。高校生の作品がみごとな出来栄で、大人も脱帽!! この「多世代交流 Part 1」は今年度の新しい試みです。2008年から始めた「食べることで身体と心を育む」ための食育活動は18回を数え、準備から後片づけまで、子どもたちと一緒に手づくりの味を楽しんでいます。

最近の「子どもの貧困」問題から、居場所づくりや食育の重要性が一層増していると感じて、この試みを

始めたとのことです。

代表に活動の想いと抱負をお聞きしました。

「私たちは毎週水曜日の居場所づくり、学習支援、食育、英検講座など、幅広い活動を継続しています。親でもない、先生でもない第三者との関わりを持つことで多感な思春期を上手に乗り越えていくことを願っています。設立当初から『できる限り管理はしない、排除はしない』をモットーに大人の価値観を押し付けず、子どもの立場に寄り添って、向き合う時間を大切にしています。子どもたちを地域で見守る役割の一端を担えればと、各会員は自分が出来ることをしています。この活動に関心のある方が増えれば、子どもにとって地域がもっと心地よい居場所になると信じています」

※お問合せ：いなぎFFネットワーク 代表 廣田雅恵さん (Tel. 042 - 379 - 4850)